

丹波漆を考える アイデアブック

— 夜久野とウルシの未来を考える —

IDEA BOOK



漆(うるし)とは漆の木の樹液で、昔から塗料や接着剤として使用されてきました。漆の塗られた器を漆器(しっき)と呼びます。以前は国内に漆の産地がたくさんありましたが、時代の流れと共に産業の移り変わりにより、少なくなってしまいました。古くから京都・日本の伝統文化を支えてきた京都府福知山市夜久野町の漆掻き(丹波の漆掻き)ですが、漆木の不足や後継者育成などの課題を抱えており、漆掻きを次世代につなぐための活動が行われています。

本冊子は、京都府学生 × 地域つながる未来プロジェクト・福知山市若者まちづくり未来ラボ事業として、丹波漆に関心をもつ大学生と丹波漆に関わる方々(NPO法人丹波漆、やくの木と漆の館)との協働で設問を考案し作成しました。本冊子が、丹波漆について多くの人が知り考えるきっかけとなることを願っています。

作者

森下航平(京都大学総合人間学部3回生)
西辻栄里花(京都大学農学部3回生)
岡野太郎(名古屋大学経済学部2回生)
谷間大祐(京都外国語大学国際貢献学部4回生)
田口智也(京都大学農学部2回生)
真柄有貴(京都産業大学現代社会学部1回生)
家敷和弥(福知山公立大学地域経営学部2回生)
松井優(京都大学法学部3回生)
西田光輝(福知山公立大学地域経営学部4回生)

協力

高橋治子(NPO法人丹波漆 理事長)
大藪泰(NPO法人丹波漆 副理事長)
小野田さやか(NPO法人丹波漆 副理事長、やくの木と漆の館)
山内耕祐(NPO法人丹波漆 理事)
平岡明子(やくの木と漆の館)
酒井維人(京都府政策企画部)
田村祥代(京都府地域協働コーディネーター)
塩見直紀(半農半X研究所代表、総務省地域力創造アドバイザー)

発行日：2022年2月28日

発行：NPO法人丹波漆

協力：京都府

問題集はこちらのフォームからも回答いただけます▶



回答フォームへのリンク

Q1



あなたは最近ウルシの樹や漆製品を見たり使ったりしましたか？
最近の生活を振り返ってみてください。

1

2

3

Q2

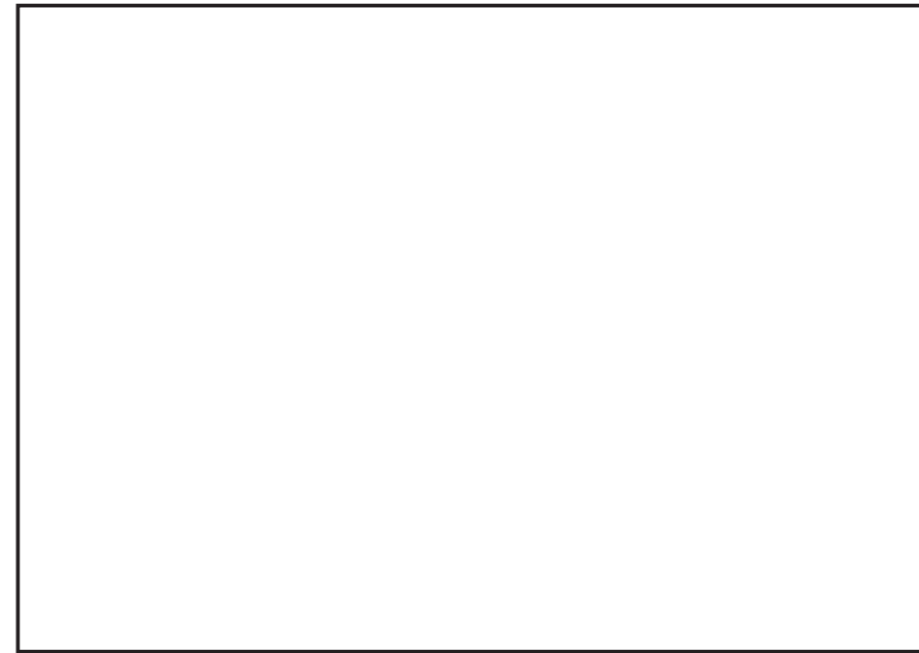


漆（うるし）という塗料は樹の樹液です。ウルシの樹に傷を入れて一滴一滴集めます（「漆掻き」と言います）。あなたなら漆を何に塗ってみたいですか？

Q3



ウルシの仲間にはどんな植物がいて、
どんな共通点があるでしょうか？
調べてみましょう。



Q4



かつて漆掻きは全国的に盛んでしたが、
現在まで漆掻きが残っている場所は限ら
れています。夜久野のウルシ(丹波漆)は
どのような歴史をたどっていて、なぜ現在
まで続いているのでしょうか？
調べてみましょう。



Q5



漆掻きさんが樹を育てるために、
あなたはどんなお手伝いをして
みたいですか？

1

2

3

Q6



若者が魅力を感じるような、
新しい漆製品を提案してください。

1

2

3

Q7



丹波漆と福知山を知ってもらうために、丹波漆と他の福知山の名物（食べ物、お城、祭りなど）をどうコラボさせると面白そうですか？

1

2

3

Q8



漆掻きをした後の木は切り倒してしま
います。掻いた後の木をどのように
活用できそうですか？

1

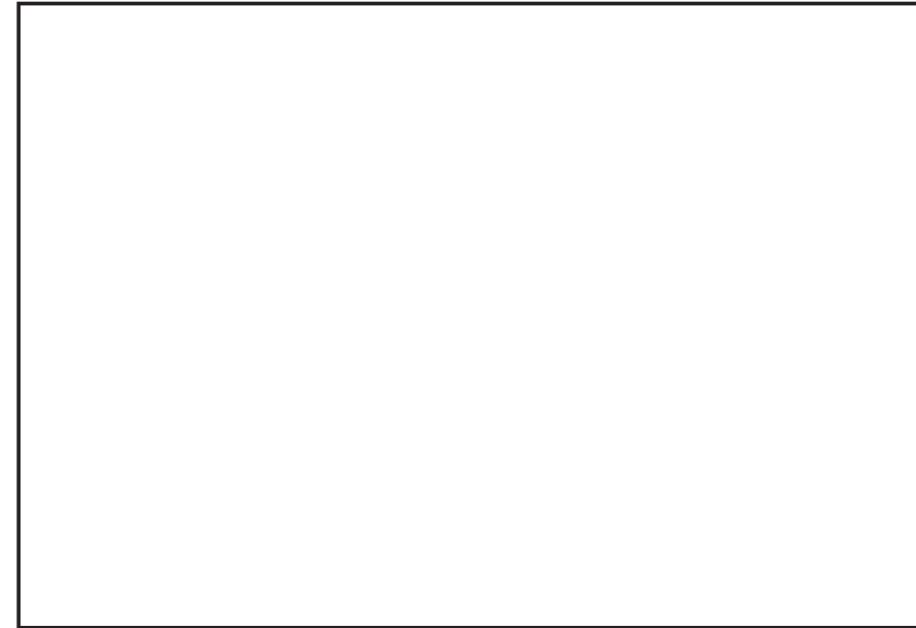
2

3

Q9



■ 丹波漆を PR するために、
丹波漆キャラクターを考案してください。



Q 10



あなたを丹波漆大使に任命します。
丹波漆を全国・世界の人に知ってもらう
ためのPR方法を考案してください。

1

2

3

Q11



京都府内には、ウルシの樹から漆工製品づくりや文化財までの道のりがすべて揃っています。丹波漆に立ち寄ることを前提に、1泊2日京都旅行プランを提案してください。

Q 12



ウルシはどのような場所に植えると良いのでしょうか？調べてみましょう。ウルシの生態・管理・経営・地域の状況など、様々な観点から考えてください。



Q 13



良質な丹波漆を採るためのウルシの樹が不足しています。丹波漆を未来につないでいくために、どのような課題を克服する必要がありますのでしょうか？ 生産、消費、経営、技術伝承など様々な観点から考えてください。

Q
14



なぜウルシを守るのでしょうか？
丹波の漆掻きを保存・継承する事の
意義とは何でしょうか？

1

2

3

Q 15



持続可能な社会の実現に向けて、
漆製品にはどのような利点がある
でしょうか？

1

2

3

Q 16



夜久野にとってウルシとはどのような存在なのでしょうか？ウルシは夜久野に何をもたらすのでしょうか？

